

# 千里ニュータウンまちびらきから 50 年 吹田市立博物館 2012 年秋季特別展 『千里ニュータウン半世紀展

## ～千里発・DREAM～』を終えて

まちなみ委員 松岡要三

(秋季特別展実行委員会委員)

前号で紹介したように吹田市立博物館では 10 月 13 日から 11 月 25 日(日)まで首記の特別展が開催され開催されさまざまなイベントがおこなわれました。ここではその中で、まちなみ委員で実行委員の役と松岡が企画した「おでかけイベント」(表1)と「講演」(表2)を通じて見えたもの、感じたものを紹介します。(特別展の概要は博物館から発行された図録と博物館だより(写真右)、博物館市民ブログ<http://sui-haku.at.webry.info/>を参照ください)

### 1. 「おでかけイベント」(表1)で見えたもの

#### ・千里緑地

筏委員の企画で千里緑地をニュータウン側と外周に沿って歩く緑地体験ウォークを実施したがこれは面白い企画だった。内外両地域にとっても素晴らしい緑の壁で良好な自然環境を感じることができるが、内外両地域の交流を妨げている。もう少し風通しを良くする工夫が期待される。

南千里中学通学路から見た桃山台に隣接する春日地域。春日と桃山台との行き来は中学校校庭



を横断しないとできない。

#### ・理想都市 千里ニュータウン

千里ニュータウンは世界のニュータウンを参考にしながら、理想都市を求めて専門家が叡智を絞って創った街である。公共施設、住区・住宅、道路、公園をじっくり見て歩いた。近隣センターには課題があるが新千里東町で始まったコミュニティカフェが新千里西町、佐竹台でも見られた。団地内や戸建住区も詳しく見て歩いた。歩車分離・通過交通対策がとられている。戸建住区の袋小路(クルドサック)は通過交通対策には効果大だが、反面不便でもある。

#### 表1 おでかけイベント

千里緑地体験ウォーク

- ・桃山台駅～博物館
- ・北千里駅～山田駅
- ・山田駅～博物館

理想都市の今を見て、未来を見て歩く

- ・南千里地区
- ・千里中央地区
- ・北千里地区

団地名勝見て歩き

- ・UR 千里竹見台団地～新千里東町団地

団地再生見て歩き

- ・新千里南町～佐竹台

歩行者専用道路の設置は際立っていて、小学生は安心して通学できる。幹線道路とその側面・大小の公園・遊園は緑ゆたかで自然に恵まれ、豊かな空間が形成されている。団地の住棟間にも豊かな空間がある。

またサブセンター予定地など未利用の土地、廃校跡、利用の少ない公園・遊園などの活用が課題である。

#### ・副都心 千里中央

千里中央は日本初の人工地盤上に創られた街である。北急の駅ビル・千中パル、日本初の大型総合レジャーセンターとして建てられた千里セルシー(写真下)、阪急百貨店に阪急ホテル、千里の文化を育んだ読売文化センター、千里の学術文化の発信基地・千里ライフサイエンスビル、日本初の地域冷暖房基地・千里エネルギーセンター、企業のデータセンターなどのオフィスビル群があります。千里中央は箕面・茨木をも抱合するグレーター千里のセンター地区で他地区より飛び抜けた賑わいを見せている。



#### ・団地名勝、ニュータウンの名勝

理想都市を目指して街がつけられただけに団地名勝と云えるところがある。竹見台の高層住宅群は駅から通じる陸橋からの眺め、千里南公園牛が首池の東からみな風景はニュータウンの象徴的風景として知られていますが、UR 新千里東町団地、UR 千里青山台団地、桃山台駅前の新千里南町の高層住宅も素晴らしい景観を見せています。千里北公園、千里中央公園、千里南公園、東町公園、桃山公園、佐竹公園や千里さくら通り、千里ぎんなん通り、三色彩道など四季折々の彩りで市民を楽しませています。千里ニュータウン観光、団地観光に応える観光資源があります。



新千里東町のこぼれび通り。セルシーから橋を渡ったところから千里中央公園まで続く歩行者専用の緑道。



青山台フェニックス遊園よりの眺め

・団地再生

千里ニュータウンのいたるところで団地の再生事業が進められています。再生された団地のあり方が問題と考えられるものも多く見受けられます。例をあげれば、規模が大き過ぎる、駐車場の景観、隣接する住宅への影響と調和、ゲイテッド・マンションなどがあります。OPH 佐竹台Ⅱやジオ千里桃山台などのように住民が積極的の再生事業に参画したマンションには素晴らしいものがあり、おおさか優良緑化賞や大阪サステナブル建築賞を受賞している。

皆さんもじっくりと千里ニュータウンの街を見て歩きませんか。色々な発見があります。

2. 千里ニュータウンの未来・DREAM

～講演会よりさぐるキーワード～

千里ニュータウンは 50 年前に理想のまちを求めて創られた実験都市です。そして住民たちは人生の夢・暮らしの夢を描いて入居しました。そしてこれからの 50 年、「千里ニュータウンの未来・DREAM」を、表 2 の講演会よりキーワードを探ってみました。○江川先生の講演からは：20 世紀の住宅建設は「大規模で効率的な時代」。国内外の事例を紹介しながら、次の時代は地域の環境を重視し、それぞれの場所に着目して、「小さく解く、混ぜて解く」。また「市民参加の重要性」、「ベッドタウンからライフタウン」、集合住宅と戸建てが混在する「ミックスコミュニティ」。ストックを活用しながら、また均質な空間を解体して「多様で自律的（持続可能な）まちへ再編する」。

○柿本講師の講演からは：市民 100 人委員会作成の「千里ニュータウン再生ビジョン」、「住区再生プラン」や「千里ニュータウン再生指針」、「地区計画」の方針を活かして、市民と行政・事業者が具体的な再生計画の中で協働の街づくりを進めていくこと。

○角橋研究員の講演からは：オランダを例に外国から学ぶこと。オランダでも「専門家主導・大規模・短期集中型」では失敗もある。大きな団地の「全面建替え・高層化・高密度化」は持続可能性を失う。豊かな

環境資産の保全、周辺住宅との調和、スカイラインを考える。事業者と市民(自治会)に専門家を加えた三者協議のまちづくり。

○藤本先生の講演からは：50 年前に造り込まれた景観要素を検証し生かす。豊かな木々のストック、つながりのあるある空間、起伏を生かした法面の緑化。新たな景観まちづくり～竹林活動、花育て、歩道・池・公園の清掃活動、カフェ、祭り、イベント。人を生かす、各世代にコミュニティが成長するまち。敷地に価値なし、エリアに価値あり。まちをよく見る。想像力・感性を働かせてもっと良くする色・形を考える。みんながそう考えてまちづくりに生かすと良い街になる。

○太田 都市デザイナーの講演からは：千里ニュータウンの建設理念に基づいて具体化されている空間・施設を評価し伝承する。ソーシャルミックス（居住階層の混合）と分離（住区と商業地）。質の高い公共空間。近隣住区論。歩車分離・通過交通低減策。幼低校（幼稚園と小1,2年生の分校）。入居後の住民生活・活動の物語をつくる。

○片寄先生の講演よりは：千里ニュータウンを世界遺産に。太陽の塔は千里の大仏。太陽の塔+テレビ



の泉(写真左)で世界の観光客からお賽銭。お仕着せのまちから住民主体のまちへ。京・阪・神・千里ーウメサオさんの遺言(写真下)。世界に発信。千里眼。住民運動に創造性(未来への展望を

持つ)共感性、連帯性。努力しなければ環境は守れない。西山卯三さんにならって「住まいの記」を書く。勝負はこれからの 50 年。

表 2 主な講演 (筆者担当分)	
団地再生の夢	関西大学教授 江川直樹氏
千里ニュータウンの現状と取組み	吹田市千里再生室 柿本和人氏
熟年留学生の見たオランダの住宅事情と千里再生への提案	関西大学客員研究員 角橋徹也氏
創られたまちから創るまちへ	京都市立芸術大学教授 藤本英子氏
理想都市「千里ニュータウン」の計画と現状	都市デザイナー 太田博一氏
千里ニュータウンを世界遺産に	大阪人間科学大学教授 片寄俊秀氏

